

## 副会長就任のご挨拶

国大化学会副会長 松本真哉（化学・生命系学科化学 EP 代表）

国大化学会の皆様、はじめまして。今年度から化学・生命系学科化学EP代表を担当することになりました松本真哉です。化学EP代表は、現職の教職員正会員を代表して、国大化学会の副会長を務めることになっています。会員の皆様のご支援やご協力を頂きながら、現職の教職員ならびに現役の学生の架け橋としての責任を全うできるよう精一杯努力致します。どうぞよろしくお願い致します。

令和に入りほぼ1年が過ぎる頃に、新型コロナウイルスの影響が世界中に拡がり、従来の活動が大きく制約を受ける状況になりました。大学の教育研究活動も大きな影響を受け、2020年度の初頭は、緊急事態宣言の発令もあり、教職員と学生が大学に来ることができない時期がありました。その後約3年が経過し、大学の教育研究活動も、コロナ禍以前の状況にほぼ戻っています。また学内外の関連活動も、今年度から対面形式で再開されるようになってきました。今年度の国大化学会の総会も、7月1日土曜日に本学で久しぶりの対面形式で開催されました。残念ながら今回は懇親会の実施はありませんでしたが、次年度には復活されることを期待しています。

この原稿では、本来は、副会長としての抱負などを書くことが通常かと思えます。ただ、国大化学会の皆様には、新型コロナウイルスの影響が顕著になって以降も、様々な水準で学生などのご支援を頂いてきました。新たにご支援頂いた特別学生支援では、多くの学生が助けられたと聞いています。また、「学会参加補助」や「ドクタースタートアップ支援」などの支援も継続して頂いています。ようやく状況が落ち着きつつある今、いろいろな制約のある中で教職員と学生が共に歩んだ教育と研究の状況を振り返り共有できればと考えました。

2020年度は、最初の緊急事態宣言が発令されて以降、対面形式での教育や研究が困難になり、Zoomなどのオンラインツールを用いたライブ形式や、講義動画を視聴して受講するオンデマンド形式が、講義の軸になりました。多くの教員にとって、各ツールの利用が急務になると同時に、動画教材の内容や受講生向け課題の検討などで多くの時間が割られました。また学生実験も遠隔形式で進めることになりました。実験動画を準備すると同時に、対面形式と同



等程度の教育効果になることを念頭に課題などを設定しました。この時に整備した資料などが、対面が軸になった今でもいろいろな役割を果たしています。夏頃には、体育会の活動が徐々に再開され、一年生向けの実験も対面での実施を始めました。講義や学生実験の状況は、秋学期になっても大きく変わりませんでした。ゼミや研究室活動が制限付きで再開できることになりました。しかしその後も状況は変動し、2020年度は多くの活動が遠隔形式で進められました。2021年度になると、学生実験や学部専門科目は対面実施が軸になりました。今でも、大人数が受講する教養科目はオンデマンド形式が定番ですが、その他の活動はほぼコロナ禍以前の状況に戻っています。対面形式に戻った講義などでも、以前よりもオンデマンドで利用できる動画や教材などが充実する結果となり、学習意欲のある学生にとっては環境が良くなっているようです。一方、大学の調査では、2021年度以降、学生の学業に関わる時間の減少傾向が続いているという結果が報告されています。学びに前向きな姿勢を持たない学生にとっては、遠隔での活動を退避的な手段として選択している場合もありそうです。この点は、私たち教員のこれからの大きな課題の一つになると感じています。

今期から、いろいろな活動が復活することが予想されています。二年生向けの化学EP配属歓迎会も、今年度は以前と同じ形式で実施する予定です。国大化学会からも多大なご支援を頂けると聞いています。就職準備講座や先輩訪問なども、徐々に再開されることを期待しています。このような横や縦のつながりを体験できる機会が増えることで、学生の教育研究姿勢がコロナ禍以前よりも良い方向に向かうことを願っています。引き続き化学EPの学生と教職員へのご支援のほど、どうかよろしくお願い致します。